

# 講 義 要 項

授業科目	母性看護学概論			担当者	向吉 喜美代
区 分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	15 時間	講義・演習・ディスカッション		1年次・前期・後期
授 業 目 標					
母性看護の基盤となる概念を理解し、母性を取り巻く社会の変遷と現状を知ることができる。					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 母性看護の基盤となる概念	1. 母性及び母性看護の概念を理解し、意義と役割を学ぶ。	1. 母性とは 1) 親になることと母性 2) 母性の身体的特性 3) 母性の心理・社会的特性 4) 母性看護における母性 2. 母子関係と家族発達 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2) 家族機能 3) 家族の発達課題 3. セクシャリティ（人間の性） 1) セクシャリティとは 2) セクシャリティの発達と課題 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 1) リプロダクティブヘルス/ライツとは 2) 女性とリプロダクティブヘルス/ライツと課題 3) 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 1) ヘルスプロモーションとは 2) 女性の生涯にわたる健康教育 3) ヘルスプロモーション活動における協働 6. 母性看護のあり方 1) 母性看護の理念 2) 母性看護の課題と展望 7. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定 8. 母性看護における安全・事故予防	6		講義
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1. 母性保健行政と母性保健に関する統計・動向を学び、母性看護の課題について考え、述べることができる。	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母性保健統計の動向 3) 母性看護に関する組織と法律 4) 母性保健に関する施策 5) 母性看護の場と職場 2. 母性看護の対象を取り巻く環境 1) 家族 2) 地域社会 3) 生物学的環境 4) 社会文化的環境	4		講義 演習
3. 母性看護における倫理	1. 周産期に生じやすい生命倫理の現状を理解し多様化する倫理観について考え、述べるができる。	1. 生殖補助医療・着床前・出生前診断と生命倫理 2. 母性看護における倫理的意思決定	4		講義 演習 ディスカッション
		修得試験	1	1	

参 考 文 献 等	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学（1），母性看護学概論，医学書院. 2. 国民衛生の動向，厚生労働統計協会.
評 価	1. 単位修得試験 他レポート内容、授業参加状況
備 考	実務経験：助産師として、豊富な知識・経験をもとに授業を行う。